

所蔵VTR一覧』を増補刊行して、その利用の拡大に努めてきました。なお、この映像資料類では特にVTRについては積極的な貸し出し活用の段階になっており、各学校の特別活動・授業・総合学習の時間・生活指導等で利用されています。また、フィルム的一般への貸し出しも活発に行われています。

(5) 県民図書室の利用状況 2002年3月31日現在

閲覧者数 232人 レファレンス 186件 その他 453件
フィルム貸出 174件384本 図書貸出 114人263冊

(6) 資料選定委員会の活動

資料収集の内容を、①教育・労働等に関する基礎的な研究に資するもの、②当面の教育課題に役立つもの、③実践面から提起されて、工夫・創造されたもの、という分野におさえ、年5回の選定委員会を開催し、積極的な収集・充実に努めてきました。

2. 教育研究所の研究活動

(1) 研究方針・所員会議

2001年度の教育研究所は「職場・地域に根ざした教育活動の推進」という指針のもと、「学校現場を踏まえつつ研究者とのさらなる連携」「『総合的な学習の時間』についての調査・研究」を活動方針に掲げ、月1回の所員会議を中心に活動を進めてきました。

(2) 所報『ねざす』・研究所ニュース「ねざす」の刊行

教育研究所の所報『ねざす』第27号では、2000年11月に行われたシンポジウム「17歳～高校生の生活実態と学校」の再録を中心に特集を組みました。また、第28号では前述の研究活動方針にそって「総合的な学習の時間」に関しての特集を組みました（『総合的な学習の時間』が迫ってくる）。『総合的な学習の時間』にかかわる歴史や実践例の紹介をはじめとして、所員による文献紹介も試みました。高校の場合、この「総合的な学習の時間」はなかなかなじめない部分もあるようなので、情報の発信に努めました。

研究所ニュース「ねざす」は4回発行し、それぞれ「埋もれた教育の歴史発掘」「どうつくるか『総合的な学習の時間』」「教育の再生」ということをめぐって「ドイツの大学入学制度」のタイトルでした。

(3) シンポジウムの開催

年1回、秋に開催しているシンポジウムは、「どうつくるか『総合的な学習の時間』」というテーマで行いました。『ねざす』第28号の特集と連動させながらのテーマです。休みの土曜日を使ってはじめて開催し、しかも当日は雨にもかかわらず、百名近い方の参加を得ました。シンポジストの一人である長尾彰夫氏の「こんなもん、そやから始まってからでも考えたらええねん」という言葉に多くの参加者はほっとしたと思います。

(4) 『神奈川の高校教育白書2001』の編集

90年以来、年1回発行している『神奈川の高校教育白書』の2001年度版では、「中途退学者の声を高校改革へ」ということで高校中退に関するアンケート独自調査を行い、その結果を掲載しました。これはマスコミにもとりあげられ、話題になりました。

3. 研究助成事業

(1) 神奈川における高等学校教育の振興、発展を図る立場から、各団体・グループ等に働きかけ、例年の日程で募集を行い、5月29日の審査委員会において応募者の中から39団体に助成金の交付を決定しました。

(2) 特別研究助成は「カンボジアの子どもたちの母語の保障を考える会」の『在日のカンボジアの子どもたちに母語を保障するための方法や手段の研究』に行いました。

4. 教育講演会・研究会・学習会の実施

(1) 「教職員のための教育講座」について

高校教育会館の主要な事業として、「教職員のための教育講座」を例年5回開催してきましたが、県教委の研究参加にかかわる対応が変化したことにより'99年度の参加者は予定を大幅に下回りました。よって、2000年度においては推進委員会での議論を踏まえて、「教職員が日頃直面する出来事への対応」との視点から運営して開催したところ、好評でした。2001年度もこの一方通行の講演会式ではなく講演者と参加者の質疑応答時間を確保したワークショップ方式を受け継いで、6月28日に「性教育問題」、10月26日には「生徒指導問題」で開催してそれぞれ25名余の参加者を得ました。